

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572609105		
法人名	有限会社 福寿		
事業所名	グループホーム福寿草		
所在地	秋田県大仙市福田字川原道下55番地1		
自己評価作成日	平成31年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成31年2月23日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「ありがとう たった一言 大きな愛」をスローガンに掲げ、グループホーム独自のアットホーム感、家庭的な雰囲気大切にし入居者様が自らの意志で、認知症があっても自分らしく、安心して生活できるように一人ひとりに寄り添った支援を心掛けている。  
 ・毎月、交換ノートに生活状況が伺える写真を載せて、ホームだよりを作成し施設での様子をお伝えし、ご家族様から通信欄にご意見やご要望を伺いサービス計画書に反映させている。  
 ・四季折々の行事に外出・外食と生活に変化をつけ、ご入居者様もスタッフも互いに刺激しあい、支え合い日々を共に明るく楽しく過ごしていけるよう努力している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

さくらんぼ、柿、栗の木の他に畑の野菜や花、隣地の桜も加わり、雪のない季節の目ににぎやかな風景が想像されます。利用者は共同生活の中で自ら積極的に動き、好きなことや得意なことにそれぞれの持つ力を発揮しており、職員は利用者の意思を尊重して見守っている姿勢がみられ、職員間で情報を共有することで利用者の自由と安全が守られています。交換ノートを通じて家族の思いを知ることができ、家族と共に利用者の望む暮らしを大切に考えて支援しています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(ことぶき館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、職員みんなで意見を出し合い決めている。見えるところに掲げ共有し理念に沿ったケアができるようにしている。グループホーム独自の事業計画を立て実行していけるように全職員で取り組んでいる。	ホームを自宅と同様の生活の場として過ごしていただけるよう支援しています。利用者の要望に可能な限り応えたいという職員の思いがあり、毎年目標を設定して実践に繋げていけるよう努力しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に近所の床屋さんや来所されている。毎年、地域の公民館祭りに作品を展示し見学に行っており隣の図書館では、本や昔のDVDを借りたりしている。地域の小学校の学習発表会予行に毎年招待され鑑賞を楽しみにされている入居者様がいる。	地域の催しに参加したり図書館に出かけたりして地域の方々と交流を深め、野菜をいただく等の日常的な繋がりが保たれています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	「認知症なんでも相談所」に登録しており、いつでも対応出来るようにしている。職員よりご家族の相談を受け短期での入所となった方もいる。運営推進会議では、事業所内の取り組みや認知症の方への支援などを報告し、認知症への理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に行政・民生委員・自治副会長・郵便局長・ご家族様・入居者様が出席して下さり、事業所での活動と様子を報告したくさんの意見をいただきサービスへ反映させている。職員の研修が多い事に驚いていた。	会議には資料を添付してホームの取り組みを理解していただけるよう努めています。参加者からの地域の情報をサービスに活かせるよう取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている方は、必要時に担当に連絡を取りスムーズな対応を心掛け、金銭に関する相談等もしている。介護保険事務所にも問い合わせや相談する体制を取っている。	制度上の問い合わせや包括支援センターへの相談等、管理者が行政との窓口となり、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成30年度より身体的拘束等適正化委員会を2ヶ月ごとの運営推進会議にて開催しており、身体拘束や虐待についても外部研修や社内研修、事業所内研修を実施し職員全員が周知確認している。	マニュアルを整備し、内外の研修を通じて身体拘束をしないことを職員の共通認識としおり、日常業務の中でも意識できるよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年虐待については、外部研修をし事業所に持ち帰り職員全員に周知している。法人内でも研修をし虐待防止についての理解を深め、一つひとつのケアについて職員同士で話し合い、虐待や不適切なケアが無いようお互いに注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度についての研修を行い、理解し職員間で共有している。成年後見制度についても利用が必要かの判断を見極め、必要なときは支援できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設の雰囲気を知っていただくために、ご本人様、ご家族様に見学をしていただき、不安な事や相談等の機会を設け、安心して契約に望めるようにしている。契約時には十分な説明を心掛け理解と同意を得るように努め、改定時は事前に文書でお知らせをし承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、担当よりご家族様に交換ノートを送付し入居者様のホームでの様子や要望を伝えており、ご家族様からの要望も伺っている。面会時等に気軽に伝えられるように玄関に「ご意見箱」を設置している。	利用者の要望には随時応えています。交換ノートを活用して職員と家族間で意見を交換、共有しており、利用者の思いを伝えることで家族の意見を引き出せるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士で意見を話し合い報告し、管理会議や主任会議、職員会議等で相談の機会を設けている。代表者には管理者を通して意見等を伝えてもらい、業務改善やサービスの向上に繋げている。	法人内の各会議で職員の意見が伝わる環境が整っており、それに対する代表の意向も職員に伝えられています。管理者は日頃から職員と会話を多く持つことに努め、サービスの向上に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を設けており、個々が目標を持って仕事に取り組んでいる。取得したい研修のアンケートをとり外部研修や法人内の研修に参加し向上心をもって働ける環境づくりに努めている。忘年会や月毎の誕生会を開いてもらい、職員交流の機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、教育・研修委員会を組織し年間計画に基づき、毎月研修会を行っている。外部研修は職員の希望やレベルに応じて参加している。また法人内で実践報告会に向けての取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は、地域密着型介護事業者連絡会の会長と日本認知症グループホーム協会の秋田県副支部長を兼ねており研修会や介護フォーラム等を開催し全国から著名な講師の方々を招き学ぶ機会を得ている。密着型の研修では、同職種がグループになり話し合える機会を作り共感できる場がある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接をし、入居者様本人ご家族様から情報を伺い職員全員が共有し、入居にあたり不安なことや要望等が無いかを聞き、安心出来る環境や関係づくりを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり望む生活の希望を聞き、サービス計画書の内容を確認していただき承諾を得ている。分からないことは、気軽に聞いてもらえる関係性を築ける様努力をしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染んだ生活になっても言葉使いには気を付けながら、方言を交えての会話が何多く何でも話しやすい関係づくりに努め、人生の先輩として様々なことを教えていただいている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には行事等への参加を呼びかけたり、交換ノートや電話で生活の様子を伝えている。面会時や外出時など家族でゆっくり過ごす時間を大切にし入居者様を共に支えていく関係性を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎年、お孫様にお中元やお歳暮を自身で選んで送られたり、教師をされていた方は昔の同僚の方と年賀状のやり取りをされている。ご友人様やご親戚の方の面会時には写真を撮って差し上げたりしている。	訪問理容の方とは旧知の間柄であり、図書館は在宅時から利用しており、図書館職員との交流もあります。また、お盆、正月に帰宅する方もおり、これまでと同様の暮らし方が継続されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日2ユニット合同でリハビリ体操を行っている。移動時は入居者様同士で車椅子を押したり声を掛けたりしている。ユニットを歩き来しながら作業やレクレーションを協力し合い助け合っている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院がきっかけで退居されても、不安な事や要望などをいつでも相談できる体制を整えている。他の施設へ入居されても面会に行ったり、知り合いを通して情報を得ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様からの情報を基に日常の会話などで好きなもの得意なものなどを知り生活歴も聞き出し、思いや希望の意向を把握し要望に応えられるように努めている。	日常の会話や職員と一緒に活動を通して利用者の意向の把握に努め、生活に反映できるよう取り組んでいます。職員の気づきは記録して共有しています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に入居者様、ご家族様ご友人の方から情報提供をさせていただいており、これまでの経過の把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録にて、一日の様子を把握すると共にバイタルや排泄表、食事や水分摂取状況などの情報共有をし変化がある時は職員、管理者も現状の把握に努めすぐに対応できる体制をとっている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様から事前に思いを伺い要望に沿ったケアが出来るようにカンファレンスを行い、入居者様の状態の変化に伴いその都度話し合いをし、それぞれの意見やアイデアを活かし現状に即した介護計画を作成するように努めている。	担当職員を中心にしてカンファレンスを行い、面会時や電話での会話、交換ノートも活用して家族の意向を踏まえ、利用者の意向を反映させた介護計画となるよう話し合っ作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別記録にその日の状態、言動をサービス計画書に基づき記入し共有している。定期的カンファレンスを開催し介護計画の見直しに活かせるように話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の床屋さんに来てもらって散髪されている。近くの小学校の学習発表会の予行に毎年招待を受け観賞に行ったり、公民館まつりに参加し鑑賞に行っている。入居者様のお誕生日にご家族様がボランティアで紙芝居やエプロンシアターを行い観賞している。また、歌や踊りのボランティアの方が来て下さっている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に入居者様とご家族様の希望をお伺いし、かかりつけ医や事業所の協力医療機関など希望の病院に受診され適切な医療を受けられるように支援している。体調に変化があったり、薬の事で聞きたい時は、協力医療機関の医師や薬剤師に定期的に状態を報告し相談している。	入居時にかかりつけ医、緊急時の対応を確認し、希望に沿った支援が行われています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、入居者様の心身の状態を観察し、24時間体制で変化があればすぐに訪問看護師に相談している。訪問も定期的であり、聞きたいことや相談したいことは連絡ノートに書き込み指示を仰いでいる。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診時など普段から病院との連携を取り、情報交換や相談をしている。近隣の病院との入退院時の体制やしぐみを知る研修にも参加し退院時の支援に繋げていけるよう関係づくりに努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合はどうするかをご本人様やご家族様に説明をしどのようにしていくかを相談し、居宅支援事業所とも連携を取り支援に繋げている。	終末期の協力が得られる医師が確保できず、重度化した場合は次の支援に繋げていけるよう取り組んでいます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応について救命講習や研修を毎年行っている。様々な事故や緊急時のマニュアルも全員がすぐに見られる所に備えている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施しており、消防署員の方たちより指導していただき、消火訓練の他様々な災害に対する対処方法も教えていただいております。停電に備えて玄関に発電機が常備設置されており、対流型石油ストーブも常備している。	地元の消防団が避難訓練に協力し、そのノウハウを活かした適切なアドバイスを受けながら訓練が行われています。ユニット間の連絡通路は広く、冬季は非常口及び建物の周囲を除雪して避難経路を確保しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、自身で出来ることは無理の無い範囲で行われている。排泄介助時は、必要な部分の介助を心掛けており、プライバシーを損ねることの無い言葉かけや対応に努めている。	利用者一人ひとりの理解に努め、その意思を尊重してできることを認めて接しています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合った対応により働きかけており、自己選択、自己決定が出来るように努めている。おやつ時の飲み物やお誕生日に食べたいものを聞いて提供している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活リズムに合わせ、塗り絵を自ら毎日少しずつ行う方、朝と夕に施設内を必ず散歩される方もいる。体調を予め伺い作業等も事前に準備をし行える体制を整えている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際は、入居者様と一緒に着替えを準備している。毎日の髭剃りの声掛けと剃り残しは介助しており、女性の方は定期的に髪染めをされている方もいる。外出時はお気に入りの洋服を選びお化粧をされ楽しんでいただけるよう配慮している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の材料を伝えると、肉じゃがが良い、カレーが良い、シチューが良いと皆の意見を聞きメニューを決める時もあり、下ごしらえや味付け、味見や盛り付けなど一緒に行っており配膳や下膳も快く行われている。	食事の準備や後片付け、山菜の下処理等々、さまざまな場面で利用者の力が発揮されています。慣習に合わせて行事食やお菓子を一緒につくり、食を通じたさまざまな取り組みが季節毎に行われています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表を使用し把握している。水分は必要量摂取できるように工夫し対応している。食事に関する研修に参加し、栄養バランスや見た目味付けなど工夫し、おかゆ・刻み・トロミなど状態に応じて提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っている。上手に磨けない方には、磨き残しを介助している。入れ歯の方はきれいにした後、義歯洗浄の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、ひとり一人のパターンを把握している。日中・夜間で尿取りパットの大きさを工夫し排泄に対する不安を軽減し、自尊心を傷つけることの無いような声掛けをするなどの配慮をしている。	チェック表を活用し、トイレでの排泄を支援しています。一人ひとりの状態に合わせて排泄用品の使用を工夫しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖・乳製品の摂取、食物繊維の多い食材を多く使用した食事・水分・活動量のチェックをし出来るだけ自然排便を促す工夫をしているが、必要によっては主治医に相談し薬を処方してもらい使用している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば毎日の入浴が可能である。必要に応じてシャワーチェアを使用したり、シャワーハットも使用し介助・見守りしゆくりと入っていただける様支援している。	連日或いは1日おき等、その時々希望に応じて対応しており、週2～3回入浴できるよう支援しています。オムツを使用している方には毎日陰部洗浄を行っています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温チェックや寝具の調整、扇風機や温風ヒーター、湯たんぼ、電気毛布など入居者様の希望に沿える様支援している。お昼寝は、ソファーやマッサージ機、居室など好きな場所で休まれている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人ひとりの既往歴を把握し、薬の種類、用途を確認し服薬支援している。受診時に薬の変更や追加があった時は、服薬後の状態を記録し必要に応じ主治医に報告している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力を活かす支援を心掛けており、ひとり一人の力を活かした役割や楽しみ事を考え皆で行える様に支援している。習字の得意な入居者様には、行事の時や今月の歌、他入居者様の誕生会の垂れ幕を書いてもらっている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年、お花見やラベンダー園見学、紅葉狩りに出掛けては、外食し入居者様が食べたいものを召し上がられている。その他に買い物や地域の行事、学校行事にも参加をしている。毎年大仙地区合同の敬老会や自宅地域の敬老会へも希望し行かれており、送迎等でご家族様の協力もいただいている。	恒例の行事として外出を企画している他、個別の希望を聞きながら戸外に出かけられるよう支援しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の理解のもとにお金を所持され自己管理されている方もおり、欲しい物を購入され自分で支払いされたり、お孫様にお中元やお歳暮を自身で選び支払いをされ送られる方もいる。お金が少なくなると不安になり面会時催促されている方もいる。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている方もおり、自由に電話をされ通販から購入されている方もいる。手紙を送りたい方には内容を代筆し宛名を書いて投函までの支援をしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を常に心掛け入居者様が作成した季節の作品やお花を飾ったりし居心地の良い空間で生活できるように配慮している。四季を感じられる装飾などを演出している。	ユニット間は広い廊下で繋がっており、一方のユニットのホールからは花壇や木々の様子から季節を感じとることができます。利用者の特技を活かした作品が飾られていますが、過度な飾り付けをしておらず、落ち着いて過ごせる共用の場所となっています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間やホールのソファや食席は、自由に移動出来ており、もう一つのユニットの方も来られ一緒にくつろげる空間を設けている。同郷の入居者様同士お話をされたり、一緒にレクリエーションも行っている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には住み慣れた環境を目指し使い慣れた物を使用し、馴染みの空間作りを心掛け、自宅から仏壇や鏡台を持ってこられている入居者様もおり自宅同様の生活に近づける様に支援している。	自分自身で管理できる方は自分なりの生活の場をつくっており、それぞれの居室がその人に合わせた個性的な環境づくりに配慮がみられます。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動時に廊下や洗面所、お風呂や浴槽内、トイレなどに手すりがあり、立ち上がりや方向転換など安心して行える様な援助をしている。介助が必要な方にはいたるところに職員を呼ぶ事が出来る工夫をしている。		